



クラシノソコアゲ応援団! RENGO キャンペーン

# 全道キャラバン通信

NO. 63 2018. 5. 30 発行責任者 連合北海道組織労働局

## 高プロ反対! 札幌中心部で集会とデモ

連合北海道は5月29日、衆議院本会議での強行採決の動きを受けて、札幌大通公園4丁目において高プロ制度導入反対の集会を行い、その後市内中心部をデモ行進した。集会には連合組合員ら約300名が参加、多くの市民や観光客も足を止めて訴えに耳を傾けていた。

野党の抵抗を受けて衆院本会議での強行採決は31日へと先延ばしされたが、与党があくまで今国会での採決姿勢を崩していない中、連合北海道は高度プロフェッショナル制度導入に反対する強い姿勢を市民にアピールするため開催。集会の冒頭、出村会長は「高プロは過労死を招く制度、過労死遺族会の涙の抗議を無視する安倍政治を許してはならない。今必要なのは、命と健康を守る労働時間管理だ」として、あくまで残業代ゼロ制度の撤回を求めると強く訴えた。



出村会長(左)と上田弁護士(右)

日本労働弁護団北海道ブロック事務局長の上田絵理弁護士が連帯の挨拶に駆けつけ、「労働弁護団としても全国で反対運動に取り組んでいる。『働かせ放題』につながる法律で長時間労働・残業代ゼロを招く。今も労働紛争で悪質な事例が絶えない。年収要件も引き下げられるおそれがある。労働者のあるべき生活を考える真の働き方改革が必要。反対の声を出し続けて行こう」と呼びかけた。



村上市議

続いて、国民民主党の篠田江里子札幌市議が「過労死遺族会の皆さんが見守っていたなかでの強行採決、その時の自民党女性議員の勝ち誇ったような表情には怒りさえ覚えた。働き方改革といってもパワハラ対策なども含まれておらず許すことはできない」と高プロ反対を訴えた。

さらに、立憲民主党道連副幹事長の村上裕子札幌市議も「過労死を助長する『働かせ方改悪法案』の白紙撤回を求める。数の力で法案を押し通そうとする安部政権のやり方、



篠田市議

権力の傲慢さを許すわけにはいかない。最後まで頑張る」と訴えた。

集会後、参加者は連合北海道長久保青年部長の力強い声に合わせ「高プロ反対」のシュプレヒコールを繰り返しながら、札幌駅前通りをデモ行進した。

集会の最後に、杉山事務局長の音頭でガンバローを三唱する参加者



**働き方改革関連法の強行採決に抗議する緊急街頭集会**

**5月31日(木) 18時から 札幌駅西口 紀ノ国屋書店前**